

別紙2-1 認知症症状等について

① 《認知症症状の程度について》

- 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
- 日常生活に支障をきたすような症状、行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
 - 家庭外で上記の状態が見られる。
(たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等)
 - 家庭内でも上記の状態が見られる。
(服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等)
- 日常生活に支障をきたすような症状、行動や意志疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
 - 日中を中心として、上記の状態が見られる。
(着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。やたらに物を口に入れたがる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行動等。)
 - 夜間を中心として、上記の状態が見られる。
(上記の内容と同様)
- 日常生活に支障をきたすような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
(上記の内容と同様)
- 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。
(せん妄、妄想、興奮、自傷、他害等の精神症状や、精神症状に起因する問題行動が継続する状態等)

② 《認知症症状等に伴う行動の内容やその程度》

- 行動の内容 被害的 作話 感情が不安定 昼夜逆転 同じ話をする 大声を出す
介護に抵抗 落ち着きなし 一人で出かける 収集癖 物や衣類を壊す
ひどい物忘れ 独り言・独り笑い 自分勝手に行動する
話がまとまらない 他()

上記についての具体的内容